

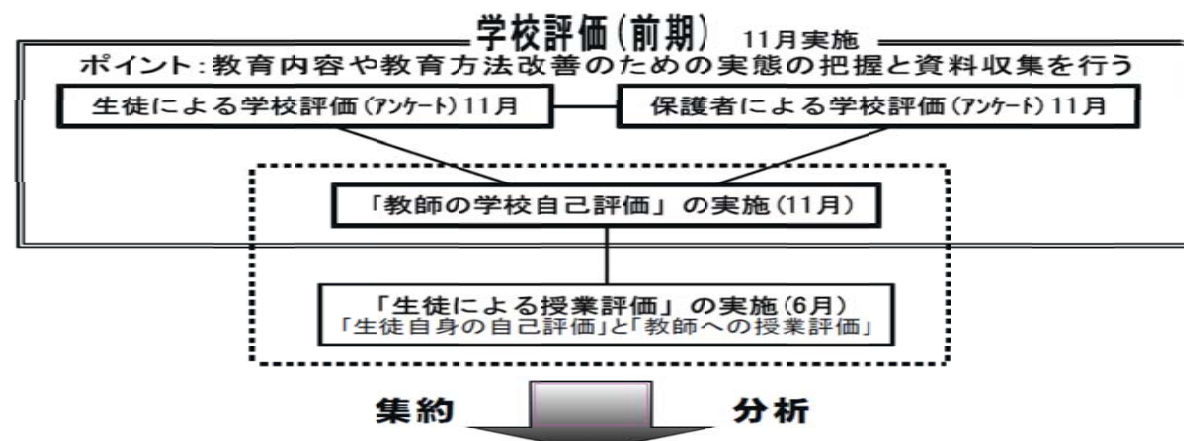
青き楓

学校評価 特集

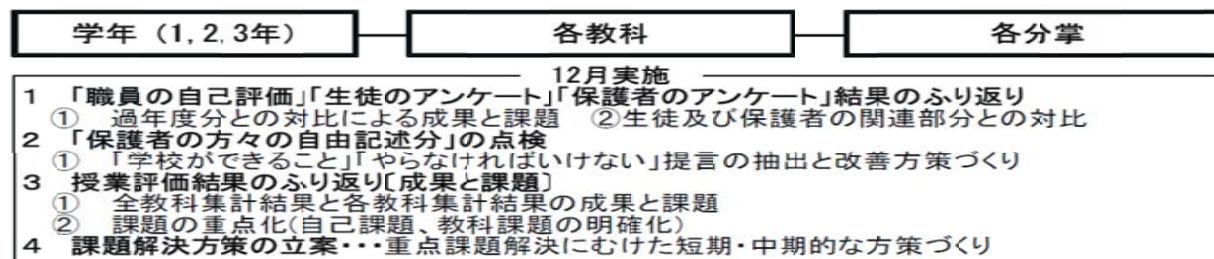
島高だより
平成18年5号
(通巻第17号)
長崎県立島原高等学校
編集：情報図書部

はじめに 本校の教育活動の向上のために学校評価を実施して4年目になります。本年度は以下の手順で行いました。**アンケート実施方法**は①教員の自己評価②生徒アンケート③保護者アンケートにより**前期（11月）後期（3月）**の2回行い、①「4」とても思う（十分達成できている）②「3」そう思う（おおむね達成できている）③「2」あまりそう思わない（どちらかという達成できていない）④「1」そう思わない（ほとんど達成できていない）の**4段階評価**です。数値は回答者の平均値です。

前年度の学校評価課題の確認＋本年度の学校重点目標等の確認＋評価項目の設定段階



各学年・教科・分掌での「成果と課題の抽出」「課題の重点化」「目標設定・改善策の検討」の段階



公開 ↓ 共有

次時・次年度に向けた職員全員での課題解決方策の共有と教育実践の開始

各課題解決方策を職員会議等の場面で協議し共通理解を図る

学校評価（後期）2～3月実施

ポイント：改善の進捗状況の確認と次年度への持続的な取組を促す

「教師の学校自己評価」の実施（3月）
進捗状況の確認と次年度への継続

PTA評議員会（2月）及び学校評議員会（3月）での情報提供と意見聴衆

平成18年度 学校評価に関する生徒アンケート結果（過年度対比）

	No.	具体的評価内容	H18	H17	分析概要
(1) 学校経営	1	島原高校に入学してよかった。	3.0	3.0	改善：入学満足度は高い。よりいっそうの文武両道の明確化、共通理解の促進化が課題
	2	校訓「文武両道」は、生徒によく理解されている。	2.8	2.7	
(2) 教育活動	3	授業の中での評価や通知表の評価については納得できる。	3.1	3.0	更新：相対的に成果向上、よりいっそうの生徒理解と授業改善の促進による進路実現を目指す。
	4	「総合的な学習の時間」は、役に立っている。	2.9	2.5	
	5	文化祭や体育祭など、学校行事は充実している。	3.3	3.0	
	6	わかりやすく満足できる授業が多い。	2.8	2.7	
	7	先生は、親身になって悩みの相談にのってくれる。	2.9	2.7	
	8	進路関係の情報提供は十分なされている。	3.2	3.2	
	9	服装・挨拶など、先生の生活指導は適切である。	3.1	2.9	
(3) 学校環境	10	生徒は、環境美化に積極的に取り組んでいる。	2.7	2.4	更新：施設設備の充実・美化コンクール等の取組により成果が上がっている。ボランティア活動についても広報活動も重視しながら段階的に充実させていきたい。
	11	学校の施設・設備は、充実していて満足できる。	3.1	2.9	
	12	学校は、防災・危険防止など、安全面の配慮がなされている。	3.2	2.9	
(4) 地域連携	13	学校は、保護者や地域の人々に信頼されている。	3.2	3.0	
	14	学校は、ボランティア活動に積極的である。	2.7	2.5	
	15	生徒は、地域の行事によく参加している。	2.4	2.1	
(5) 生徒活動	16	生徒は、好ましい友達関係があり、楽しく登校している。	3.3	3.2	更新：(1)との関連で、「学習と部活動の両立」への困難さを感じている生徒への具体的手だてが必要である。
	17	生徒は、明るくはつらつとした挨拶をしている。	3.0	3.0	
	18	生徒は、意欲的に学習に取り組んでいる。	3.0	2.9	
	19	生徒は頭髪・服装など、端正な身なりをしている。	3.0	2.9	
	20	学習と部活動を両立させている生徒が多い。	2.9	2.8	
(6) 自己評価	21	授業に臨む前の予習は、計画的に十分に行っている。	2.7	2.5	改善：予習・復習の充実も含めた授業改善が求められてる。保護者より密に連携し取り組んでいく必要がある。
	22	授業後の復習は、必ずきちんと行っている。	2.4	2.3	
	23	授業には集中して積極的な態度で参加している。	3.1	3.0	
	24	授業中の不明な点はわかるまで先生や友達に質問する。	2.8	2.6	

平成18年度 学校評価に関する保護者アンケート結果（過年度対比）

評価項目	No.	具体的評価内容	H18	H17	分析概要
(1) 学校経営	1	島原高校に入学させてよかった。	3.6	3.6	改善：生徒同様に入学満足度は高い。よりいっそうの文武両道の明確化、共通理解の促進化が課題
	2	学校の指導方針は、生徒によく理解されている。	3.2	3.2	
(2) 教育活動	3	学校は、学校便りなどで学校の様子をよく知らせている。	3.2	3.3	改善：教師の個人面談の充実や学校としてのカウンセリング機能を高めたい。
	4	文化祭・体育祭など、学校行事は、感動的で充実している。	3.5	3.4	
	5	教師は、指導に熱意があり、満足できる授業が多い。	3.1	3.1	
	6	教職員は、保護者の皆様に親切に対応している。	3.3	3.3	
	7	教師は、生徒の悩みをよく聞いて理解に努めている。	2.9	3.0	
(3) 教育環境	8	学校は、環境美化に積極的に取り組んでいる。	3.3	3.3	更新：次年度も充実・改善に努めていきたい。
	9	学校の施設・設備は、充実していて満足できる。	3.3	3.3	
(4) 地域連携	10	保護者は、PTA活動に協力的である。	2.8	2.9	更新：次年度も充実・改善に努めていきたい。
	11	PTA活動は、計画的に活発に行われている。	2.9	2.8	
	12	学校は、ボランティア活動に積極的である。	2.8	2.8	
(5) 生徒活動	13	生徒は、意欲的に学習に取り組んでいる。	3.2	3.3	更新：次年度も充実・改善に努めていきたい。
	14	挨拶など、生徒の生活マナーは、きちんとしている。	3.3	3.3	
	15	学習と部活動を両立させている生徒が多い。	3.3	3.3	

平成18年度 「教職員による自己評価」結果概要（過年度対比）

種n	種	H18	H17	点検項目と分析概要
1	教務全般 (学校の実務全般)	3.0	2.9	主な点検項目(評価項目) ①教育改革 ②教育課程 ③時数確保 ④学力充実 ⑤二極化防止 ⑥授業規律 ⑦家庭学習
				更新:今後も本校の校是や教育目標に沿った教育活動を全面展開していきたい。
2	進路指導	3.0	3.0	主な点検項目(評価項目) ①キャリアプラン ②自学自習 ③補習等 ④模試等 ⑤難関校対策 ⑥進路情報 ⑦新課程対応
				更新:授業評価や授業改善推進事業等も生かしながら、よりいっそう教師自らが授業改善に継続的に取り組む。
3	生活指導	3.0	2.9	主な点検項目(評価項目) ①品位 ②挨拶 ③規律 ④交通安全 ⑤情報モラル
				更新:携帯電話や自転車等の安全指導も含めて、よりいっそう指導の充実を図る。
4	校是「文武両道」に関して	2.8	2.9	主な点検項目(評価項目) ①人間形成 ②時間厳守 ③学習支援 ④学校行事 ⑤各種委員
				改善:文武両道のあり方について、具体的に検討を加え生徒や保護者とも共通理解を図っていく必要がある。
5	人間性陶冶	2.9	3.0	主な点検項目(評価項目) ①環境美化 ②教育相談 ③危機管理 ④心の教育 ⑤読書活動 ⑥ボランティア
				改善:まずは教職員の意識を高め、心の教育・人権教育の推進に向けて、学校をあげて取り組みたい。特にカウンセリングや個人面談等の充実を図りたい。
6	開かれた学校づくり	3.2	3.2	主な点検項目(評価項目) ①島高青楓塾 ②PTA活動 ③授業公開 ④学校便り ⑤図書便り
				更新:HPやweb情報の充実に努め、迅速で分かりやすい情報発信等を心がける。
7	職員研修	2.9	3.0	主な点検項目(評価項目) ①教科研修 ②情報推進 ③生徒理解 ④環境整備 ⑤エコ・オフィス
				改善:研修内容や研修機会を総合的に見直し、より効率的で、効果的な研修のあり方を検討する。
8	学年学科	3.0	3.0	主な点検項目(評価項目) ①全般 ②1年 ③2年 ④3年 ⑤理数科
				更新:学年・教科会のいっそうの充実を図り、相互連携を強化したい。
9	教育成果	2.9	2.8	主な点検項目(評価項目) ①島高魂 ②規範意識 ③学習力 ④生活習慣 ⑤健康健全
				更新:保護者の方々や地域の思いや願いに応える一体感ある学校づくりを今後も進めたい。

【保護者の方々による評価アンケート～自由記述欄】について

今回の学校評価アンケート調査の際に、自由記述欄を設けましたところ、保護者の皆様から多数のご意見・ご感想等をお寄せいただきました。改めまして、本校に対する保護者の皆様の率直な願いや思いをいただきましたことに厚く感謝申し上げます。今後、本校の教育改善に

役立ててまいりたいと思います。

この欄の記述につきましては、学校評価との関連性を持ちながら短期的・中期的な改善が図れるものを抽出したものを、後日ご紹介させていただきます。なお、その際に以下のように、類型化を図りました。

教育成果にかかるコメント・・・日頃の学校の教育活動についてエールをいただきました。

～中間評価をふまえて（分掌等の横断的取組みの検証）～

学校評価システムの更新・改善

【私たちが取り組みたい、取り組むべき課題】

◎島高の学校評価システム構築の取組みの継続と推進

＜平成17年度・・・全面的な見直しを行い実施＞

- ①各評価シート及び評価項目（職員の自己評価、生徒アンケート、保護者アンケート）
- ②実施時期及び実施方法（前期10月と後期2月）※ただし、後期は職員、生徒のみ対象
- ③評価結果の集約と公開（学校だより「蒼き楓」で、前期・後期分を総括し、今後の対応も加えて公表）

＜平成18年度・・・前年度の成果と課題を踏まえて実施＞

- ①各評価シート及び評価項目は前年度を踏襲
- ②実施時期及び実施方法（基本的には前年度を踏襲するが、前期結果をもとに各学年、各分掌及び各教科で、課題の共有化と解決策づくりを行う。その成果を全体で明示・共有化し、その後の改善に生かす方法をとる。したがって後期2月の学校評価は、改善方策の成果と課題の検証として実施する。）
- ③評価結果の集約と公開（学校だより「蒼き楓」と島高紀要にまとめ、次年度に向けた成果と課題として公表する）

◎H18「保護者アンケート」の自由記述欄より

【A 現実値】領域の見直しポイント5－学校評価の内容等

- 質問される内容が保護者には答えづらい。
- 実施状況がよくわからない項目が多い。
- 見えない所やわからない所は空欄にした。

【成果と課題】

【成果】

- ◎各学年・分掌、及び各教科で実施結果に基づいて、解釈・共通理解を図ることができた。
- ◎前年度の評価結果と比較・検証することで、学年や分掌を超えた横断的課題がつかめた。

【課題】

- 1 本校における学校評価を、いかに無理なく、年間計画の中に組み込んでいくか、また、教育活動改善を目的とした他の評価活動との差別化をどのように図っていくか。
- 2 保護者や外部評価者が、評価のための適切な情報を、年間を通して、継続的に、しかも分かりやすく入手していくためには、どのような手立てを講じていけばよいか。

【目指す姿】

＜課題1について＞

年度内に、無理なく、学校評価の取り組みが行われ、評価結果がその年度の改善に生かせる状況にある。

＜課題2について＞

事前－事中－事後にわかりやすい形で、しかもタイミングよく、情報提供がなされ、学校評価のねらいに沿った評価のもと、具体的に、教育改善がしようとする学校や職員の姿がわかる。

【課題解決方策】

- 1 授業評価や目標管理制度等の運用との重なりや職員のやる気や業務に極力支障がないように、実施時期の再考を行う。
例：前期7月、後期12月の2サイクルでの運用による改善スピードの向上。
- 2 保護者や外部評価者には、事前に、学校だより等で年度の評価計画や評価項目を明示したうえで、年間を通して関連情報の提供を行う。
- 3 平成19年度中に、学校評議委員会を外部評価委員会とした学校評価ガイドライン策定に着手する。

現実値・・・「今やらなければならないこと」、「やるべきこと」で、現在の島高の組織的・個人的教育力で十分改善できる可能性があるもの→短期的課題

可能値・・・傾聴に値する事柄ではあるが、島高の教育資源（いわゆる3M等）や教育環境等を整えた上で年間を通して取り組まなければならないもの→中期的課題

期待値・・・長期的な課題として、より共通理解を深めなが

ら進めていく必要があるもの

個々のコメントにつきましては、3月に集約が完了した時点でHPに掲載する予定でございます。

<http://www.shimabara-h.ed.jp/>

をどうぞごらんください。